

鎌倉映画茶論【浮草物語】

「カフェサンスーシ」映画鑑賞の集い

名作は何度見ても新たな発見と感動を与えてくれます



12月21日(木)

16時より無料上映

小津『無声映画』の最高傑作
キネマ旬報ベスト・テン一位

於：カフェサンスーシ
(鎌倉雪の下3-10-23)

清泉小正門前)

毎月第三木曜16時～感動の名画・永遠の名優と共にお過ごし下さい

～ 作品紹介 ～

1934年(昭和9年) 松竹 小津安二郎監督 89分

信州のとある田舎町に旅芸人の一座が訪れた。そこは座長市川喜八(坂本武)の昔の女おつね(飯田蝶子)と息子信吉(三井秀男)が住む町だった。喜八は、河原乞食の親ではまずかろうと信吉には事情を隠していたのだった。一座の看板女優、喜八の世話女房おたか(八雲理恵子)はこのことを知って嫉妬し、当てつけに妹分のおとき(坪内美子)に信吉を誘惑させるが、おときと信吉はそのまま恋に落ち、激怒しておたかとおときを叱責する喜八。一方、雨の日が続き興業不振に陥った一座を、喜八は解散することを決断。おつねの家で喜八と対立した信吉におつねは喜八が実父であることを告げる。おつねに信吉とおときを託して町を離れる決心をした喜八は駅に向かう。駅でおたかと再会した喜八は、再びおたかを旅芸人の生活に誘うのだった。

浮草、日本国中、芝居小屋を求め旅に発つ、ねぐらを持たない旅芸人の生活。昭和35年小津自身が『浮草』の題名でリメイク、そこに本当の人生を描く!